



会員寄稿

「起床」・「就寝」・「学習開始」

第1学年主任 伊豫田孝幸

1年生が入学してから早くも2か月がたちました。最初はよそよそしかった各ホームルームの雰囲気も徐々に和らぎ、それぞれが特色のある集団へと変化し始めています。特に、4月17、18日の集団宿泊研修を経て、挨拶の状況が格段によくなり、いよいよ「大洲高校生」に近づいてきたなど、嬉しく頼もしく感じております。今年は「Work Hard! Work Together! ～励ましあい、競争しあって、ともに向上しよう!～」を学年テーマに掲げ、授業、ホームルーム活動、学校行事、部活動等で切磋琢磨しあひともに向上しようと、日々呼びかけています。

ところで、集団宿泊研修の最後に「集団宿泊研修を振り返って」と題し、研修で学んだことや、これからの学校生活における不安な点を書いてもらいました。この中で多くの生徒が「中学時代より教科書がずいぶん厚く内容も難しい」「授業のスピードがものすごく速く、友達の鉛筆をカリカリ動かす早さにも圧倒される」「現時点で最も不安なのが勉強です」など、学習に対する不安をあげていました。もとより高校生活は様々な要素から成り立ってはいますが、その中心は学習であり、確かな学力を付けていくことが第一の目標であります。

この確かな学力を身に付けるために、まず大切なことは、学習時間をしっかりと確保することではないでしょうか。特に、高校3年間の土台が形成される1年生のこの時期の取組が重要といえます。入学式の終了後、保護者の皆様に「1週間の普通科の平均家庭学習時間200分以上、商業科平均180分以上を目標にさせてください」とお願いしましたが、いかがでしょうか。まだまだ、高いレベルで学習が習慣化していないのが現状ではないかと思えます。この、学習の習慣化をはかる第一歩は、「起床」・「就寝」・「学習開始」の三点を、日々の生活でしっかりと固定することとされています。ある受験会社が、高校入学後の成績がよかった生徒とよくなかった生徒の学習習慣についてまとめたところ、よくなかった生徒は、「自宅学習をやったりやらなかったりとムラがある」「勉強を始める時間が日によって違う」など、学習が毎日の生活習慣にしっかりと位置づけられていない様子が浮き彫りになっています。御家庭におかれましても、夕食時間の固定化などに御協力いただき、生徒が学習を中心とした規則正しい生活を実践する中で、学習時間の確保ができますよう、御協力をお願いいたします。

また、今年度より考査期間中の部活動を制限し、より学習に集中できるように改めました。高いレベルの「文武両道」が達成できるよう指導して参りますので、保護者の皆様も御協力のほどお願いいたします。